

# イノシシ

イノシシは、ニホンジカやカモシカ、ツキノワグマとともに、<sup>ほんしゅう</sup>本州で見られる大きな<sup>ほにゅうるい</sup>哺乳類です。富山県には<sup>たいしゅう</sup>大正時代頃から長い間いみせんでしたが、最近再び見られるようになってきました。

## イノシシの分布

日本には、本州、九州、四国にニホンイノシシが、<sup>おきなわ</sup>沖縄などの<sup>なんせい</sup>南西諸島には小型のリュウキュウイノシシがいます。本州ではイノシシは雪の少ない<sup>にしにほん</sup>西日本や<sup>かんとう</sup>関東地方の<sup>さとやま</sup>里山に分布しています。<sup>ざっしよくせい</sup>雑食性で林に生える植物の<sup>くき</sup>茎や根をよく食べ、<sup>こうぶつ</sup>ドングリも好物です。カエルや<sup>こんちゅう</sup>昆虫等の動物も食べます。春に2～8匹の子を産み、子供には白い模様があり、ウリ坊とよばれています(図1)。<sup>せいちよう</sup>成長も早く2年で子を産みます。ブタとよく似ていますが、ブタは約9000年前にイノシシが<sup>かちくか</sup>家畜化された動物です。イノシシは体重が重く足が短いため、雪の多い地域での生活は<sup>にがて</sup>苦手です。30cm以上の<sup>せきせつ</sup>積雪が70日以上続く地域には<sup>ちいき</sup>生息できないと言われ、<sup>せいそく</sup>石川県から<sup>とうほく</sup>東北地方にかけての雪が多い<sup>たせつちたい</sup>日本海側の多雪地帯にはほとんど分布していませんでしたが、最近、<sup>ほくりく</sup>北陸地方で増えてきています。

## 増えつつあるイノシシ

<sup>えど</sup>江戸時代には<sup>じだい</sup>越中の各地でイノシシやシカがイネを食べたりするため、<sup>てっぽう</sup>鉄砲で<sup>お</sup>追っ払ってほしいという願いがでていたほどたくさんいたようです。<sup>めいじ</sup>明治時代には<sup>なかにいかわくん</sup>中新川郡や<sup>いみずくん</sup>射水郡で<sup>いのしし</sup>猪の毛皮が生産されていますので、<sup>けがわ</sup>当時は<sup>たいしゅう</sup>生息していたようです。しかし、<sup>しゅりよう</sup>大正時代の終わり頃から最近までの70～80年間、<sup>しゅりよう</sup>狩猟でイノシシはほとんどとられていませんので、長い

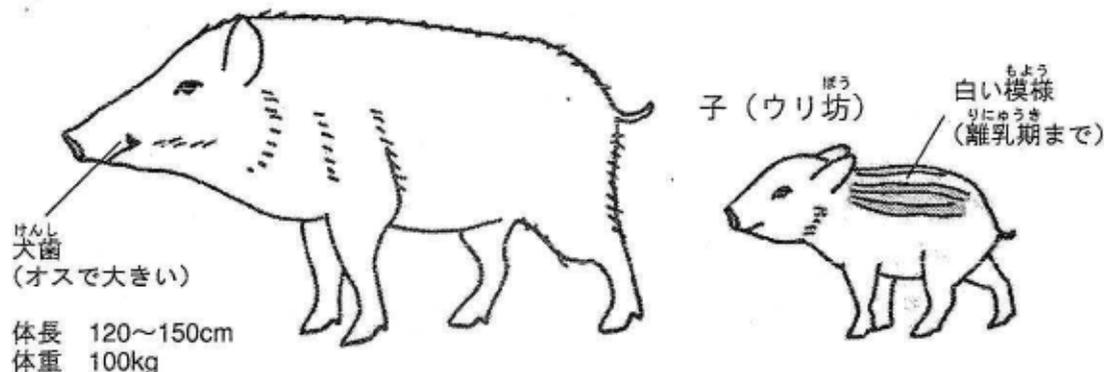


図1. ニホンイノシシ

間イノシシがいなかったことが分かります。たまに岐阜県境に近い細入村などで目撃されるだけでした。

最近イノシシは全国的に増え、1999年度には15万2千頭あまりが狩猟や有害鳥獣駆除でとられています。石川県でもかなり増えてきており、2000年度で212頭が狩猟でとられています。富山県でも最近イノシシが目撃されるようになり、2000年度には25頭が狩猟でとられています。科学文化センターのアンケート調査では、細入村、大沢野町、山田村、八尾町、立山町などの神通川水系と石川県境の福光町などで目撃されています（図2）。富山県へは1990年代はじめから、岐阜県飛騨地方から神通川流域沿いと石川県境付近から進出してきたようです。最近では、秋にイネが踏み倒される被害も出ています。

イノシシは多雪地帯では生息できませんが、1987年の冬以降の暖冬で里山の積雪が少なくなり、冬でもイノシシが生活できるところが増えてきました。このことが北陸地方でイノシシが増えてきた原因の一つと言えます。このまま暖冬が続くと、さらに増えていくかもしれません。（南部 久男）

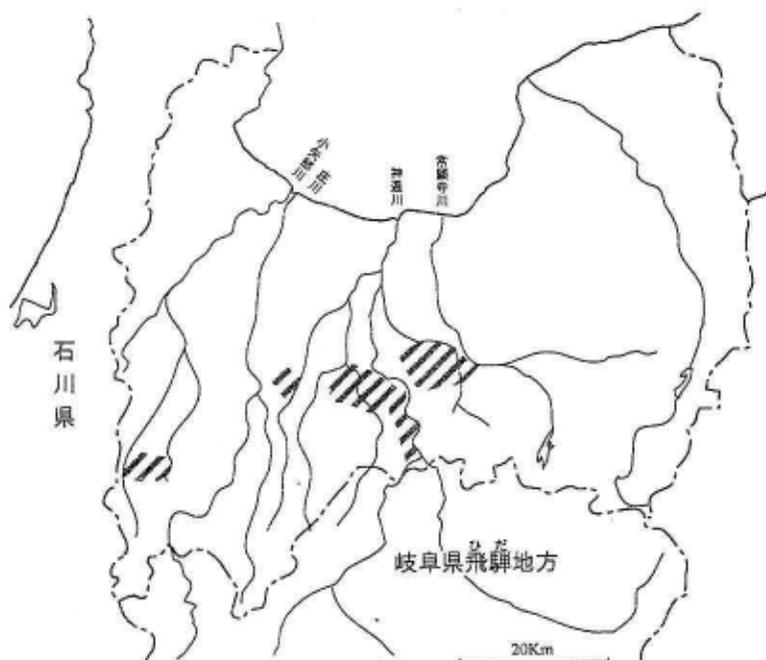


図2. 最近のイノシシの分布 (2000~2001年)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成14年12月10日